

# 小学校音楽科教材の簡易伴奏法に関する考察

西村 順子・成川ひとみ

On the Method of Simple Piano-Accompaniment at Elementary Schools

Junko Nishimura・Hitomi Narukawa

(Received November 28, 1997)

キーワード：小学校音楽、ピアノ伴奏、簡易伴奏法

## [Abstract]

At the music class of elementary schools, it is important that teachers themselves accompany the pupil on the piano. But many students who enter the Faculty of Education have no experience of playing the piano. So in this paper, we will consider the method of the students' understanding the basis of the tone-mechanism and of their learning the simple piano-accompaniment.

小学校の音楽の授業で、先生達自身がピアノ伴奏をすることは重要である。しかし、教育学部に入学した学生の多くが、ピアノ演奏の経験を持っていない。そこで本稿では、音のしくみの基本を理解し、簡易なピアノ伴奏を学ぶ方法を考察してみたい。

はじめに

§1：3つの和音を覚えます。

§2：もう1つ和音を加えます。

§3：へ長調の歌の伴奏

§4：“コードネーム”について

§5：片手伴奏・両手伴奏、及びいろいろな伴奏型のパターン

終わりに

はじめに：

学校教育でのピアノの役割は、音楽の授業の「歌の伴奏」につきるといっても過言ではないでしょう。教員採用試験では、小学校教員の実技試験にバイエル程度の独奏曲と弾き歌いを課している県が多く、小学校の歌唱教材の伴奏程度の技量はつけていないと音楽の授業は難しいですよ、という最低の条件だと思います。

近年の発達した音楽教材の関連機器は、「ピアノが余り得意ではない」と思っている小

学校の先生にとって、誠に心強い存在であり、また、近頃の「ピアノのおけいこ」の普及度にも目を見はるものがありますから、歌唱の伴奏は、クラス内のピアノの上手な児童に任せてしまうという方法もあります。

しかし「音楽」は芸術の一分野であり、「人間らしい感性」を育むことが最大の目的の教科なので、児童の歌唱の“リーダーシップ”は、担任の先生が取るべきであり、つまり、児童の歌唱のピアノ伴奏は、やはり担任の先生ができるだけ弾いた方が良いでしょう。たとえピアノ伴奏が拙いとしても、子供達のその時の状態に合った、気持ち（感じ・雰囲気）や速度で弾く先生のピアノ伴奏の方が、いつもどこでも全く同様に何回でも繰り返す伴奏テープやCDよりずっと良いと思われまじ、子供たちも「あ、先生間違えた」などと騒ぎながらも、大好きな自分達の担任の先生が弾いてくれた方が、きっと嬉しく、楽しく歌えるはずで。

しかし、実状は、教員養成大学に入学してくる学生でもピアノ演奏の経験がない者が多く、わずか数年でピアノが弾けるように指導をしていくことはかなり困難です。たとえ数年間頑張ってバイエル程度がひけるようになって、小学校の教材をこなすことはなかなか難しいのではないかと思います。むしろ、必要最低限の演奏技術の中で教材の狙いが展開できる力を養うことに重点をおいた学習こそ大切ではないかと考えます。

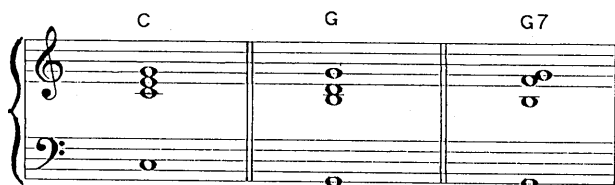
そこで、技術的には、バイエル程度を基本に身近な旋律に伴奏をつける習得方法を体系化することにより、習得時間を短縮し、より実践的な効果も期待できるのではないかと考えました。

歌唱の伴奏法は、勿論プロの演奏家に求められるような、高度で困難な領域もあるものの、音の仕組みの基本をマスターしておけば、小学校教材の音楽の世界であれば、案外シンプルに処理できます。基本がわかっているならば、指導書に載っている伴奏譜を、状況や自分の能力に応じて、簡略化することもできるようになると思います。

「簡易伴奏法」習得にあたっては、演習がとても大切です。頭で理解しただけでは、指は動きません。加えて、授業という「人の目のある場面」では、緊張を伴うため、ますます動かなくなります。能力が定着化するまで、毎日練習を繰り返します。

「伴奏付け」の実践の基本は、「メロディー（歌の旋律）に“和音”と言う“背景”をつける事」の一言につきまします。その“歌”を「覚えやすく」「気持ちよく」「効果的に」するために、“どんな時に”“どの和音”を“どの様に”弾くのが、“伴奏の音の基本”です。

### § 1 : 3つの和音を覚えます。



どちらの和音も思った瞬間に音が出せるようになるまで、十分に反復練習します。

マーク：C, G, G7はコードネームです。一緒に覚えると便利です。(コードネームについては、後で説明します。)

十分練習して準備ができたなら、一年生教材の「かたつむり」を実際に歌いながら、和音を弾いてみます。[譜例1]を参考にしながら、CとGとどちらの和音が旋律に合うか試します。また、CとGを入れ替えてみて、合っていないと違和感があるのを確認します。GとG7は同じ系列の和音なので、どちらも使えますが、曲の終結部にはG7を使うよう、勧めます。

こうして「かたつむり」に和音伴奏をつけると、歌だけでは頼りなかった「かたつむり」が、ずっと安定して歌いやすくなります。

“どんな時”に“どんな和音”を弾くのが決まったので、今度はその伴奏型を工夫します。次の例は、鍵盤におく手指の形は以前のままで、ただ動きが変わるだけです。

The image shows two musical examples, labeled 'a.' and 'b.', in 2/4 time. Example 'a.' features a treble clef staff with chords and a bass clef staff with a simple bass line. Example 'b.' features a treble clef staff with a melodic line and a bass clef staff with a simple bass line. Both examples end with a wavy line indicating continuation.

伴奏型で、曲の雰囲気はずいぶん変わります。曲の持ち味をより生かせるように工夫します。

「かたつむり」の場合、a.の伴奏型では旋律の符点のリズムが生かされます。b.の伴奏型では、ややゆっくり歌いたくなって「かたつむり」らしい、のんびりした感じになります。対象が低学年の場合は、伴奏型を数種類用意して、色々な曲感を体験することにより、子供たちの想像力を刺激するようにします。

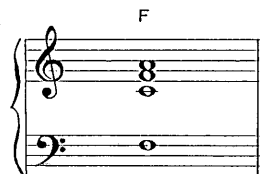
もう1曲、「ゆかいな木きん」(3年生教材)をC, G, G7で伴奏付けし([譜例2]参照)、和音が決まったら伴奏型をします。「ゆかいな木きん」の場合は、題名を生かして、弾んだ感じを表すようなリズムの形を使います。

The image shows a musical example for the song 'ゆかいな木きん' in 2/4 time. The treble clef staff shows chords with eighth notes, and the bass clef staff shows a simple bass line. The pattern ends with a wavy line indicating continuation.

「ゆかいな木きん」は、強弱に印象的なポイントがある曲です。*p*は弱く、*f*は強く、その差をたくさんつけて歌いたくなるように、例えば*f*の前の小節の四分休符で目で合図を送ります。中学年では、音の強さや速さを表現する技術を育むように気配りが大切です。

この他に、「ちょうちょう」「ぶんぶんぶん」「こぐまの2月」もC, G, G7で伴奏付けできます。

§ 2 : もう1つ和音を加えます。



そして、§ 1で覚えたC, G, G7と共に、どんな順番でも無理なく速やかに弾けるようになるまで、十分練習します。小学校の共通教材68曲の約半分がハ長調で、実にそのハ長調の曲のすべてが、これらの和音の連結で伴奏できます。

[和音の連結例]

1. C → G (G7) → C
2. C → F → C
3. C → F → G (G7) → C
4. C → F → C → G (G7) → C

和音の連結の練習が十分にできたら、「静かにねむれ」(5年生教材)を和音付けします。  
([譜例3]参照)

和音の形で伴奏できるようになったら、曲想を考えながら伴奏型を工夫します。



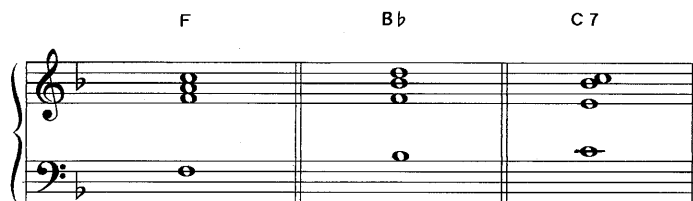
高学年になると、音楽の理論的な面—リズム・拍子等、楽典の初歩や形式—にも興味を示すようになってきます。指導の際に、心掛けなければならないことです。

もう1つ、“前奏”を付けることを試みます。前奏があると、音の高さがわかるので、初めから安定して声を出すことができます。また、テンポが示されるので、皆で呼吸をそろえて歌い始めることができます。

最も簡単な方法として、曲の最後の4小節、もしくは2小節を前奏に使うこともできます。また、子供たちが安心して歌い始められるように、前奏の最後の拍(歌い初めの1つ前の拍)で、「ハイ」と声を掛けるのも1つの方法です。

§ 3 : ハ長調の歌の伴奏

ハ長調の歌の伴奏に使う和音は、次の3種類です。



§ 2と同様に、和音の連結の練習を十分にします。

[例]

1. F → C (C7) → F
2. F → B $\flat$  → F
3. F → B $\flat$  → C (C7) → F
4. F → B $\flat$  → F → C (C7) → F

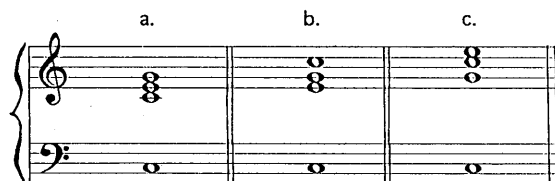
“C”は§ 3では、構成音は同じでありながら、音の配置が変わります。伴奏の和音は、このように連結しやすいように配置を変化させて用います。

またへ長調では、和音に黒鍵が登場します。コードネームも鍵盤の位置もへ長調と異なり、初めは戸惑うかもしれませんが、へ長調の曲も教材にたくさん入っていますので（共通教材で15曲）、音と手の形をなじませることで。

「ふる里」（6年生教材）で、へ長調の伴奏を試します。（[譜例4]）

先ず、旋律部分のコードネームにしたがって、和音を弾く練習をします。なお[譜例4]は、伴奏型を工夫したものです。

ここで、いくつかの和音を続けて（連結して）弾く場合、構成音の配置が変わることを、「C」の和音を例に挙げて整理します。（「和音の転回」）



a. は「基本型」です。へ長調ですっかりお馴染みの形です。

b. は、「第一転回型」です。へ長調で良く出てくる形です。

c. は、「第二転回型」です。ト長調でよく使う形です。

和音を連結して弾く際は、それぞれの音が近接するように、また、隣接する和音に共通する音がある場合は、その音と同じ位置に置くように、和音の形を選びます。しかし、和音を転回しても、和音自身のコードネームは変わりません。

#### § 4 : コードネームについて

歌の楽譜には、伴奏譜は付いていなくてもコードネームだけは書いてある譜面も多いようです。コードネームから実際に弾く和音の音が探せれば、伴奏能力はかなり高まります。

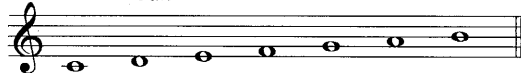
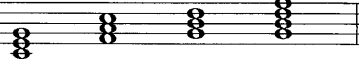
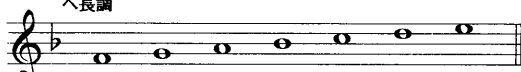
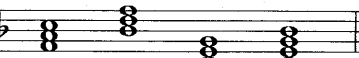
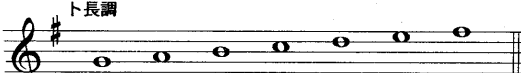
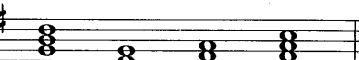

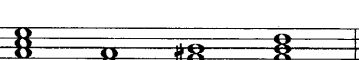
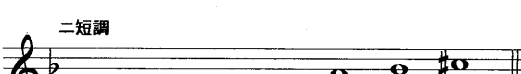
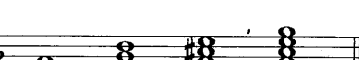
音階の音名を、次のようにアルファベットで置き換えると、それをそのままコードネームとして使うことができます。

ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ  
C D E F G A B

音名の“変”にはbを、“嬰”は#を書き添えます。

[例] “変ロ” → “Bb”

さて、これまでの演習で、基本的な伴奏は3種類の和音（「主要三和音」）で成り立つことがわかったわけですが、次に、ハ長調・ヘ長調、及び共通教材に取り上げられている他の調の、ト長調・イ短調・ニ短調の音階と主要三和音をまとめてみました。

音 階	主要三和音
ハ長調 	 C F G G7
ヘ長調 	 F Bb C C7
ト長調 	 G C D D7
イ短調 	 Am Dm E E7
ニ短調 	 Dm Gm A A7

イ短調・ニ短調の主要三和音にmのマークがあります。これはマイナーコード（短三和音）です。マイナーコードに対して、mのない、これまでに馴染みのある和音を、メジャーコード（長三和音）と呼びます。

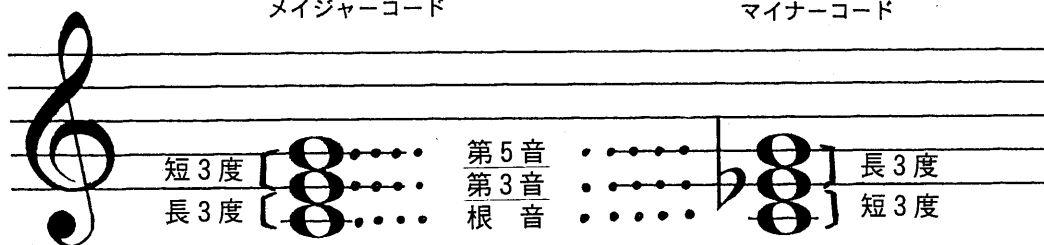
マイナーコードを実際に弾いて、メジャーコードとの響きの違いを十分に聞き取ります。

メジャーコードとマイナーコードでは、和音を構成する3つの音の、それぞれの音と音との高さの差（音程）が異なります。

“C”（シーメジャーコード）と“Cm”（シーマイナーコード）を例に、音程を比べます。

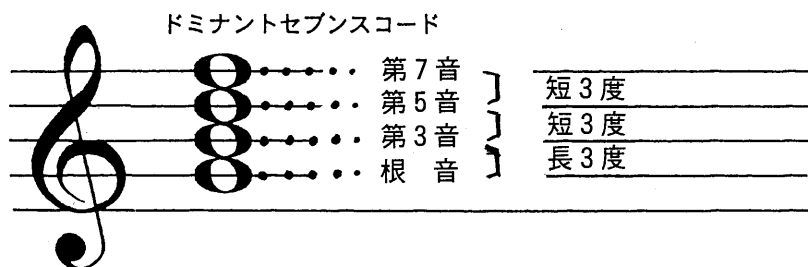
メジャーコード

マイナーコード



「長3度」は、半音が5つ分、「短3度」は、半音が4つ分です。この音程の配置は、すべてのメジャーコード及びマイナーコードに共通します。

7 (セブンス：ドミナントセブンス) の音程は、第5音の短3度上に第7音を置いたコードです。



この他に、比較的よく使われる和音のコードネーム表を「譜例5」としてあげておきます。また、本編は小学校の歌唱教材の伴奏が目的ですので、コードネームの紹介はこの程度にとどめますが、モダンな感じのする音や、複雑な響きの音など、たくさんのコードがあります。これまでの基本が使いこなせるようになった次の段階で、使えるようになると良いでしょう。

同じ旋律でも、小刻みに和音を変えたり、使う和音の種類を増やしたりして、より豊かな響きを得ることが可能になります。「譜例6」に和音の種類を増やした伴奏例をあげます。但し、□印の和音を用いるのは曲中1・2カ所にとどめます。「きらめき」の発想で、アクセサリーのように用いたいものです。

### § 5 : 片手伴奏・両手伴奏、及びいろいろな伴奏のパターン

これまでは、両手で弾く和音伴奏(両手伴奏)を取り上げてきましたが、左手だけで和音伴奏をして、右手は旋律を弾く片手伴奏の形も、指導の場面ではよく使うと思われるので、いろいろなパターンを試して、また十分に練習して、使いこなせるようにしておくことも便利です。「譜例7」に、片手伴奏の伴奏型例をあげます。

「譜例8」は、両手伴奏の伴奏型例です。

また「譜例9」は、伴奏型の、ひと味違ったリズムの例です。

終わりに：

既存の伴奏譜に囚われると、どうしても楽譜のみに注意が払われがちで、肝心な子供達の状況や反応を見逃しやすいのです。先ず伴奏の基本を中心に、個人の演奏能力に応じた簡易な形の伴奏を取り入れれば、伴奏の楽譜に縛られることなく演奏できます。演奏とは、楽譜の音響化ではなく、作品の現実化であるという事を、教師は絶えず意識しておかなくてはならないのです。

レナード・ハウス著「音楽教育の基礎と原理」にも、効果的な学習は、身近でわかりやすい問題からはじまる、と書かれているように、伴奏法も同様、わかりやすく簡単な基本から出発して、習得レベルに応じて、応用を加え、より高度な表現技術へと到達できる様、努力して欲しいと思います。

参考文献：

- ・吉田 孝、竹内俊一、松本 正、山田潤次 著  
「やさしい楽典&ピアノ伴奏」 音楽の友社
- ・宮沢 肇 著  
「やさしい和音伴奏のつけ方」 東京楽譜出版社
- ・白石 道 著  
「すぐ役立つピアノ伴奏と編曲のしかた」 龍吟社
- ・福岡教育大学音楽科＝編  
「音楽科・表現の指導」 音楽の友社
- ・大学音楽教育研究グループ＝編  
「歌唱教材伴奏法」 教育芸術社



[譜例 1]

かたつむり

文部省唱歌

で んで ん む し む し か た つ む り お ま え の あ た ま は

The first system of the musical score consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is written in a treble clef with a 2/4 time signature. The lyrics are written below the notes. The piano accompaniment is written in a grand staff (treble and bass clefs). The right hand plays chords, and the left hand plays a simple bass line. The chords are labeled with letters: C, C, C, G, C, C.

ど こ に あ る つ の だ せ や り だ せ あ た ま だ せ

The second system of the musical score continues the vocal line and piano accompaniment. The lyrics are written below the notes. The piano accompaniment continues with chords labeled G, C, C, C, C, G7, C.

[譜例 2]

ゆかいな木きん

小林純一 作詞  
アメリカ民謡

こざるが こざるが きくつを はいて まるきの

C C C C C G C G C C

まるきの はしわたり あっちいっちゃ コンコンコン

C C C G7 C G G C

こっちきちゃ コンコン ゆかいな ゆかいな はしわたり

G G C C C C C G7 C

[譜例 3]

静かにねむれ

武井 君子 作詞  
フォスター 作曲

あ おくはれた そら しろい く も そ よかぜやさ

The first system of music consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is in treble clef with a common time signature (C). The lyrics are written below the notes. The piano accompaniment is in grand staff (treble and bass clefs) and features chords labeled C, F, C, G, and C.

し く むかしをか た る お もい だ す

The second system continues the melody and accompaniment. The vocal line and piano accompaniment are shown. The piano accompaniment chords are labeled F, C, G7, C, F, and C.

あの え が お ね むれよしず か に しずかにね む れ

The third system concludes the piece. The vocal line and piano accompaniment are shown. The piano accompaniment chords are labeled C, G, C, F, C, G7, and C.

[譜例 4]

ふる里

文部省唱歌  
高野 辰之 作曲  
岡野 貞一 作曲

F C F C7 F B♭ F B♭

う さ ぎ お い し か の や ま こ ぶ な

F C7 F C7 F

つ り し か の か わ ゆ - め は い - ま も

B♭ C F F Dm B♭ C7 F

め - く - り - て わ す れ が た き ふ る さ と

[譜例 5]

The chart displays chord voicings for twelve major keys. Each key is represented by a staff with six chord diagrams. The keys are C, D, E, F, G, A, B $\flat$ , and B. The chords shown for each key are: Major (C), Minor (Cm), Dominant Seventh (C7), Major Seventh (Cmaj7), Minor Seventh (Cm7), and Diminished Seventh (Cdim7).

**C** C Cm C7 Cmaj7 Cm7 Cdim7

**D** D Dm D7 Dmaj7 Dm7 Ddim7

**E** E Em E7 Emaj7 Em7 Edim7

**F** F Fm F7 Fmaj7 Fm7 Fdim7

**G** G Gm G7 Gmaj7 Gm7 Gdim7

**A** A Am A7 Amaj7 Am7 Adim7

**B $\flat$**  B $\flat$  B $\flat$ m B $\flat$ 7 B $\flat$  maj7 B $\flat$  m7 B $\flat$  dim7

**B** B Bm B7 Bmaj7 Bm7 Bdim7

[譜例 6]

たきび (1年生) : 八長調

C C C G C7 F G7 C

G G C C F C C G7 C

夕やけ小やけ (2年生) : 八長調

C C C G7 C7 F G7 C

F C G C C F C/G G7 C

ふじの山 (3年生) : 八長調

C C G G7 C

F G7 C G7 C C7

F D7 G C F C G7 C

スキーの歌 (5年生) : 八長調

C C F C G C

F C G7 C C F C

C D7 G C G C F C G7 C

[譜例 7]

1. 

2. 

3. 

4. 

5. 

[譜例 8]

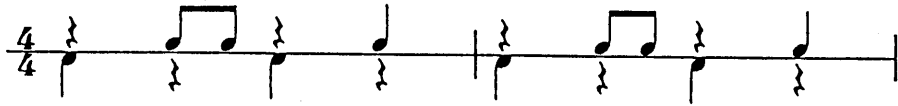
1. 

2. 

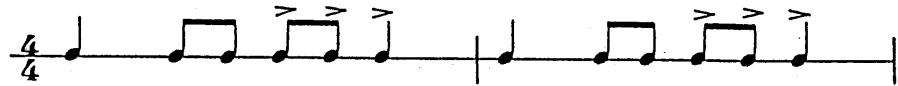
3. 

[譜例 9]

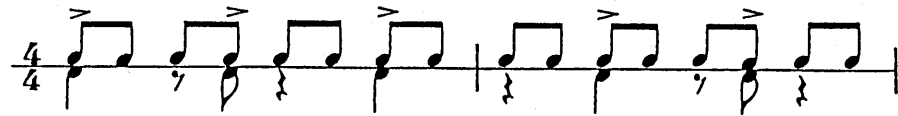
ロック



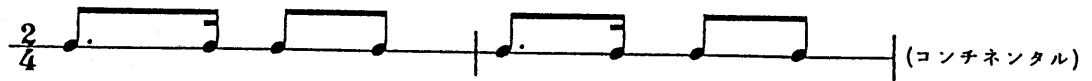
チャ チャ チャ



ボサ ノバ



タンゴ



ルンバ

